

令和7年度 第1回旭川市図書館協議会会議録

■日時 令和7年8月7日（木） 午後1時30分から午後2時30分

■場所 旭川市中央図書館 2階 視聴覚室

■出席者（敬称略）

委員長 東藤 義文

副委員長 平泉 美智子

委 員 五十嵐 憲子、上森 伸子、江口 いづみ、高倉 友恵

■図書館

田村社会教育部長、登野中央図書館長、千葉事務係長、富田奉仕係長、谷野奉仕係主査、坂口事務係主査

■次第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 委員長選出
- 4 議事
 - （1）令和6年度事業実報告について
 - （2）令和7年度事業計画について
 - （3）第5次旭川市子ども読書活動推進計画について
 - （4）その他
- 5 閉 会

■提出資料

資料1 令和6年度事業報告

資料2 令和7年度事業計画

資料3 第5次旭川市子ども読書活動推進計画（素案）等

【参考資料】

- 1 旭川市図書館の館数・職員数及び利用状況等の推移
- 2 図書館利用統計（令和5年度と令和6年度の比較）
- 3 旭川市図書館協議会委員名簿
- 4 旭川市図書館職員名簿（主査以上）

■会議の公開・非公開 全て公開

■傍聴者 なし

■協議内容(要約)

議事に入る前に、鈴木委員の退任に伴う新たな委員長の選出を行い、東藤委員を委員長に決定した。

(1) 令和6年度事業報告について

(委員)

読書ボランティアステップアップ研修会とはどのような人を対象としているか。
絵本の読み聞かせボランティア養成講座は新しい人が対象か。

(事務局)

読書ボランティアステップアップ研修会は、絵本の読み聞かせボランティアとして、すでに登録し、活動している既存のボランティアを対象とした、これからの活動に役立つ研修会です。絵本の読み聞かせボランティア養成講座は経験のない新しい人を対象にしています。

(2) 令和7年度事業計画について

(委員)

図書資料整備費全体が減少する中で電子書籍の購入予定数が増えているが、購入数はどのように決まるのか。

(事務局)

電子書籍は、毎年200万円程度の予算の中で選書しており、購入数は選書のときの図書の単価によるところが大きく、単価に応じて上下に変動します。令和6年度は複数アクセスが可能な読み放題パックなどを購入しています。

(委員)

本の単価が上がる中で、図書購入の予算が増えず、冊数は減る傾向にある。予算が増えるように意見を出すことはできるのか。

(事務局)

たくさんの購入要望をいただく中で、図書館職員も一冊でも多くの本を買いたいという気持ちを強く持って、やりくりをしています。昨年度からは、市の職員にも読み終わった本や新しい本などの寄付を呼びかけ、できるだけ多くの本を提供できるよう取り組んでいるところですが、市全体の予算が厳しい中で、昨年度比99.5%の予算が維持できたのは好成果であると受け止めています。

(委員)

行事、ボランティア研修講師の謝礼等の予算が昨年度と比べて 20 万円減っているが、予算はもう確定しているのか。

(事務局)

令和 7 年度の講習会の謝礼の予算については例年どおりで確定しています。令和 6 年度は開館 30 周年行事のため増えましたが、今年度はその分が減り、元に戻った状況です。

(3) 第 5 次旭川市子ども読書活動推進計画について

(委員)

第 5 次計画の図書館における読書活動の取組として、SNS を活用した啓発活動とあるが、どのような活動を想定しているのか。

(事務局)

今回の計画のポイントでは ICT 活用を掲げており、紙資料だけでなく電子書籍などの効果的な活用となるよう、図書館のホームページやフェイスブック、旭川市のホームページやフェイスブック、インスタグラム、ラインとも連携するなど、様々な方法により情報をより届きやすくしていきたいと考えています。

(委員)

令和 6 年度青少年のインターネット利用調査では、青少年の 98.2%が利用との記載があるが、何歳ぐらいからインターネットに触れるべきなのか、図書館の指標のようなものはあるのか。また、年齢により利用を制限することは考えているか。

(事務局)

数値は国の調査結果を示しているものですが、図書館としては経験値を高める読書体験になるのであれば、紙の本でも電子書籍でもどちらでも良いという立ち位置です。ICT 化は避けられない流れであり、制限をするというのは難しいと考えています。

(委員長)

中学校の現場では、入学してくる生徒は ICT の利用に慣れている。そのため、一人一台端末で図書の情報を得たり、電子書籍を読んだり、自分の読みたいものを検索することが進んでいくと思われる。一方、学校図書館も含め図書館は、様々な分野の本が陳列されている

ため、興味のなかった分野の本にも関心が広がるという良さがある。従って紙媒体とデジタルは共存していくのではないか。

(委員)

小学校でやっているように、中学校に出向いての読み聞かせはできないものか。

(委員長)

中学校での読み聞かせは、現在のカリキュラムでは時間の制約上難しいと考える。中学校での朝読書については多くの学校で定着し、成果をあげている。また、読書に抵抗なく親しむ態度が育っているが、そのことが家庭での読書習慣に結びついている生徒は多くはないと思われる。

(委員)

家での読書は時間的余裕が必要となり、子どもたちは部活や課題などで忙しく、読書の習慣化は難しいと感じる。高校の図書館では、自身の進路や将来をどう描くか、職業や人生観の本のラインナップを多くし、利用されている学校もある。タブレットは読書というよりは何かを調べるためのツールとして活用している印象である。

(委員)

小学校に入る前からタブレットが利用され、使いこなす能力は身に付くが、これから先、自分で調べる力をどうやって養っていくかが大事だと考える。小学生や高齢者にも読み聞かせに行っているが、やはり小学校へ入る前の小さな子どもたちへの読み聞かせが重要と考えており、色々探りながらやっている。

(委員長)

ICT化の流れは止めようもなく、これからはどう使っていくかがテーマになり、先々の状況に応じて課題を検討する必要がある。読み聞かせについては、例えば道徳や人の生き方、人権などの授業とリンクさせると効果を生む可能性がある。また、地域とのつながりの中で、どのような人がどのような読み聞かせを行っているのかを情報発信したり、働きかけることで取組が進む可能性がある。

(4) その他

(委員長)

暑い日が続いているが、今後図書館を避難的に利用する場合も増えるのではないか。図書館はどのように対応するのか。そのための各図書館の施設機能の充実と予算付けは必要なのか。

(事務局)

現在でも中央図書館はクーリングシェルターに指定されており、そういった利用をしている方もいます。図書館は居場所であるという考え方もあるが、まだそこまでには至っていないと考えています。状況を見ながら、できる範囲で受け入れているところですが、本を読みたい方が追いやられないようにしていきたいと考えています。

(委員)

Wifi はいつから、どこで利用できるのか。

(事務局)

10 月 1 日から、中央図書館の読書室のみで利用できます。利用状況に応じた対応ができるよう要綱等を整備していく予定です。